

1 日目

今日はヒースロー空港からバスで10分のホテルに宿泊。団体で泊まるホテルだから、とあまり期待していなかったけれど、びっくりするほど綺麗。夕食は見慣れない食べ物が多くて、あまり口に合わなかった。イギリスの料理は不味いって聞いていたけど…急にホームステイが不安になってきた。

そして、今は午後11時48分。時差ボケとこれから始まる語学研修への不安で寝られない。明日は寝坊できないのに…。

2 日目

今日はイギリス市内観光へ行っただけ、研修先の学校で面会式をした。私のホストファミリーは事前に資料でもらっていた通り、お母さんの Michelle, お父さんの Mark, 6歳の男の子の Rueben, 6歳の女の子の Molly の四人家族だった。

家に帰ってからは、両親二人に日本のことや家族について次々に質問された。当たり前だけど全部英語なので、今までほとんど英語を使ってこなかった私は一回で3割聞き取るのがやっとだった。何度も聞き返してどうにか中一でもできるような返事をしたけれど、私が質問に答えるのがやっとで、「会話」には全くなっていなかったと思う。帰るまでには「会話」ができるようになっていたいと思うけれど、英語での生活がここまで大変だとは思わなかった。正直、ホームステイ初日から日本が恋しい。

3 日目

今日は授業初日だった。私が所属する Class5 は赤毛のショート

カットで、声が高い先生だった。名前は…いつかちゃんと覚えよう。
今日一番感動したのは、午後のアクティビティの一つのグロスタ
ー大聖堂見学だった。ここは映画「ハリーポッター」のロケ地とし
て有名で、廊下に立ったときはまるでホグワーツ城に迷い込んだよ
うに感じた。また、ロケでは使われていないが、大聖堂に入った途
端に見える大きなステンドグラスがとても神秘的で、思わず構えて
いたカメラをおろして見入ってしまった。今まで感じたことのない
気持ちが出て、これが心が洗われるっていう感覚なのかなとおもっ
た。

4 日目

今日はイギリス人の学生とディスカッションをした。ディスカッ
ションといっても簡単な話をしたり、レクリエーションをしたりす
るだけだったのだけれど、とにかく疲れた。今まで話してきた英語
の5倍くらいの量をこの1日だけで使ったように感じた。けれど、
お互い学校のことについてや趣味のことで話が合ったりするとき
とても楽しかった。

こうして日記を書いている今もだけれど、疲れて部屋に閉じこも
ってしまつて、まともにホストファミリーと喋れていない。明日は
話せるように頑張ろう。

5 日目

今日は日曜日。私が前にショッピングが好きだと言ったのをホス
トファミリーが覚えていてくれたのか、チェルトナムにあるショッ
ピングモールに連れて行ってくれた。現地ではホストファミリーと
は別行動で、大体1時間くらいショッピングモールとそのまわりに
あるお店を自由に見て回った。キャスキッドソンの商品の包装が意
外と雑だったり、1ポンド均一ショップに2ポンド以上の商品が置

いてあったりと、イギリスのお店に実際に行ってみて日本との違いを感じた。こう書くとイギリスのお店が悪く聞こえてしまうけれど、どのお店でも店員さんがとても親切で、ポンドに使い慣れていない私にどの小銭を出せばいいのかを丁寧に教えてくれた。

そして今日の夜、「ホストファミリーとたくさん会話する」という目標も少し達成できた。ショッピングで買ったものがとても会話を広げる役に立った。

6 日目

今日のアクティビティはスコーン作りだった。なかなか材料が量れなかったり、焼くときにクッキングシートがなぜか燃えてしまったりというハプニングがあったけれど、何かある度に補助で来てくれていたイギリス人の学生さんと話しができて楽しかった。

作ったスコーンをホストファミリーに持って帰ったら、「Very good!」と言って喜んでくれてとてもうれしかった。

ようやく時差ボケが直ってきたのか、お昼に眠くなることもなくなってきた。少しはイギリスの暮らしにもなれてきたのかな、と感じた。そういえば、ホストファミリーや先生が言っていることが前に比べてわかるようになってきた気がする。

7 日目

今日はバイブリーとバートン・オン・ザ・ウォーターという、コッツウォルズ地方の村に行った。バイブリーは古い家が多くある静かな田舎町という印象だった。先生曰く、このあたりにある家は日本円で2億円くらいするそうで、軽々しく近づいちゃいけない、と思った。バートン・オン・ザ・ウォーターは川に小さな橋が架かっている、川沿いに様々なお店が立ち並ぶところで、街全体が可愛らしい印象だった。個人的にはバートン・オン・ザ・ウォーターの

方が好きだったけれど、バイブリーも自然豊かでないところだと思
った。

今日は学校から帰ると、ホストファミリーの子供たちの友達が二
人遊びに来ていた。綴りはわからないけれど、男の子のマリキート
女の子のオーランという少し珍しい名前だった。最初は話せるか不
安だったけど、二人がたくさん話しかけてくれたり、ジェンガやボ
ードゲームで遊んだりと、とても楽しい時間になった。2人のおか
げで、Rueben と Molly との距離も縮まったように感じた。別れる
前にみんな一緒にカメラアプリの「SNOW」で記念撮影をしたら、
女の子2人がとても気に入ってくれた。

8 日目

今日はマナーハウスに行った。マナーハウスとは、昔貴族のお屋
敷だったところをホテルとして使っているところのことを指すそう
だ。実際に泊まるとなると結構な値段がするらしい。今日はそこで
「アフタヌーンティー体験」をしてきた。とはいってもテーブルマ
ナーがどうの、とかいう堅苦しいものではなく、「クリームティ」を
頂きながらおしゃべりをする、という和やかなものだった。「クリー
ムティ」とは、紅茶とスコーン2個のセットのことを言い、スコ
ンにはマーガリンのような「クロテッドクリーム」とベリー系のジ
ヤムを乗せる。さすがは高級ホテルのスコーン、自分たちで作った
スコーンより格段においしかった。

9 日目

今日はストラットフォードに行った。ストラットフォードはシェ
ークスピアが生まれた場所で、シェークスピアの生家やシェークス
ピア劇場があった。そして、その劇場で「Julius Caesar」を見た。
正直な感想を言うと、ほとんど聞き取れず、眠かった。けれど、俳

優さんたちの渾身の演技にはとても感動し、有名なブルータスの裏切りのシーンでは劇にどんどん引き込まれた。

今部屋でこの日記を書きながらスケジュール表を見ているけれど、もうホストファミリーといられる時間も少ないのだな、と感じた。

10日目

今日は乗馬体験をした。ただ、乗馬中はヘルメットがきつすぎて頭が痛くなり、全然乗馬に集中できなかった。さらに高い馬の背の中の上で、指示がすべて英語、という状況だったので、とてもじゃないけれど乗馬は楽しめなかった。乗馬は私が思っていたよりも複雑で、いろいろなことに同時に気を配らなければいけなかった。

今日は疲れたので、久しぶりに早めに寝ようと思う。

11日目

今日は濃い1日だった。今まで授業のことは全く書いてこなかったけれど、今日の午前中は今までの授業の中で準備してきたプレゼンテーションの本番だった。テーマは「イギリスと日本のランチボックスの違い」について。自分の中では結構上手くいった方だと思った。

午後は、さよならパーティーだった。慣れない浴衣を着て、ホストファミリーと喋りながらお菓子を食べたり、出し物を見たりした。ビンゴゲームもして、私たちのカードは最後には5個のリーチがあったのにビンゴにはならず、みんなでくやしがあった。

さらに、さよならパーティーで行われたフォトコンテストでは、私たちの写真が予選を突破して投票の候補の中に入っていて、家族みんなが喜んでくれたけれど残念ながら賞はとれなかった。

明日がホストファミリーとゆっくり過ごせる最後の日だと思うと、とても寂しい。悔いが残らないように、あしたはたくさんホストフ

アメリカと喋ろう。

12日目

今日はホストファミリーに今までの感謝の気持ちを込めて夕食を作った。メニューはから揚げと天ぷら。ただ、結論から言うと、あまり気に入ってくれなかった。両親はおいしいと言って食べてくれたけど、子供たちは、口に入れた瞬間むせていた。自分で食べてもそんなに不味いとは思わなかったのだけど… これも私がイギリスに来た初日に感じた食文化の違いなのかな、と思うことにした。一応事前に何が好きで何が嫌いかは聞いていたのだが、味の好みは難しいと思った。日本から持ってきていたパックのお米も、イギリスの一般的なお米と違うのであまり気に入らなかったようだった。

この日記を書き終わったら、明日ホストファミリーに渡そうと思っているカードを書こうと思う。とうとう明日でお別れだなんて信じられない。明日は朝早いから早く寝ないとだけど、そうすると早く明日が来てしまうような気がするから、まだ寝たくない。まだ日本に帰りたくない。

13日目

ウィンザー城とかが行かなくていいからホストファミリーと一緒にいさせてほしかった。ウィンザー城がつまらなかったという訳ではないけれど、見学している間もホストファミリーのことを考えてしまったって、ガイドが頭に入ってこなかった。RuebenとLINEを交換したから、日本に着いたら写真付きでメッセージを送ろうと思う。またいつかみんなにあえたらいいな。